

な
か
っ
た
こ
と
に
は
で
き
な
い



黒川の女たち

5 / 16 (土) 上映会 @郡上

昼の部 たかす町民センター

夜の部 郡上市総合文化センター

監督 松原文枝 語り 大竹しのぶ

撮影:神谷潤 金森之雅 編集:東樹大介 プロデューサー:江口英明

製作:テレビ朝日 配給:太秦 2025|日本|99分|ドキュメンタリー (C) (R)

©スズキ 文化庁文化芸術振興費補助金(日本映画製作支援事業)|独立行政法人日本芸術文化振興会

kurokawa-onnatachi.jp

1945年 関東軍敗走の満洲で待ちうけた、黒川開拓団の壮絶な運命——
戦争と性暴力の事実、いま知るべきことがここに在る。



次に生まれるその時は、 平和の国に産まれない

（「接待」を強いられた女性の詩）

高齢になつた生存者の女性たちが
その身に背負つたトラウマを
ステイグマから解放されるプロセスを
このドキュメンタリーは描いた

「黒川」はそれを象徴する名前前

「反省しない」日本は、黒川に学べ

上野千鶴子

伝えなくてはいけない。

自分たちの孫やひ孫が幸せでありたいから

過去をきちんと知り、

未来を考へることをしなくては、いけないと思ふ。

大竹しのぶ

記憶が歴史になる前に、未来へ遺す。 戦禍を生きた人びとの証言。



80年前の戦時下、国策のもと実施された満蒙開拓により、中国はるか満洲の地に渡った開拓団。日本の敗戦が色濃くなる中、突如としてソ連軍が満洲に侵攻した。守ってくれるはずの関東軍の姿もなく満蒙開拓団は過酷な状況に追い込まれ、集団自決を選択した開拓団もあれば、逃げ続けた末に息絶えた人も多かった。そんな中、岐阜県から渡った黒川開拓団の人々は生きて日本に帰るために、敵であるソ連軍に助けを求めた。しかしその見返りは、数えて18歳以上の女性たちによる接待だった。接待の意味すらわからないまま、女性たちは性の相手として差し出されたのだ。帰国後、女性たちを待っていたのは労いではなく、差別と偏見の目。口さがない誹謗中傷。同情から口を塞ぐ村の人々。込み上げる怒りと恐怖を抑え、身をひそめる女性たち。青春の時を過ごすはずだった行先は、多くの犠牲を出し今はどこにも存在しない国。身も心も傷を負った女性たちの声はかき消され、この事実は長年伏せられてきた。だが、黒川の女性たちは手を携えた。したこと、されたこと、みてきたこと。幾重にも重なる加害の事実と、犠牲の史実を封印させないために――。



5/16 2026 (土)

昼の部 たかす町民センター 大ホール
13:30 - 16:00 (開場 13:00)

夜の部 郡上市総合文化センター 多目的ホール
19:00 - 21:15 (開場 18:30)

電話予約 080-5116-5331 (佐藤成子 ※出られない場合は改めて折り返しいたします)

託児あり (要予約)

協力：たかす開拓記念館 10周年記念協力事業・ミライの学校

主催：郡上・黒川の女たち上映会実行委員



事前予約 1,000円
当日 1,500円
←ご予約はQRより